

# 石黒正数『外天楼』レジュメ

平成 24 年 10 月 6 日

## 1 著者紹介

石黒正数とは……1977 年生まれの日本の男性漫画家。

2000 年に「ヒーロー」でアフタヌーン四季賞秋の四季賞を受賞し、デビュー。現在、少年画報社のヤングキングアワーズで『それでも町は廻っている』を、秋田書店の週刊少年チャンピオンと別冊少年チャンピオンで『木曜日のフルーツ』を連載中。

影響を受けた漫画家として、藤子不二雄、大友克洋、小原慎司を挙げている。初めて読んだ漫画が藤子の『ドラえもん』であり、中学生の頃まで藤子の漫画ばかり読んでいたと語る。特に藤子・F・不二雄に受けた影響は大きく、自身の作風は藤子の作風である「S・F (すこし・ふしぎ)」を更にリスペクトしたものであるとしている。【wikipedia 引用】

## 2 外天楼

ショートストーリーが積み重なり、一つの大きな話につながっていくという構成。

### ◎世界観

ロボット技術が発達していて、観賞用の人工生命体「フェアリー」も開発されていて、当たり前前に販売されたりしている作中世界。

### ◎主な登場人物

鱈沼アリオ……主人公

鱈沼キリエ……アリオの姉？

鬼口獐牙（鱈沼ガクト）……アリオの父親

ダイチ（宇宙刑事ズバン）……役者。アリオの友達

芹沢勉（芹沢博士）……ロボット工学の第一人者。アリオの友達

桜場冴子……新任刑事

山上さん……桜場の上司

## ◎お話

### 〈第一話〉リサイクル

有害なサイトを規制する法律のせいでエロいモノを見るのに苦勞する中学生3人組が、拾ったエロ本の元の持ち主を推理する。

・はっきりいってしょうもない話ですが、この話がすべての始まりになっていますね。この話も含め、最初の方は基本的にくだらないんですが、全部繋がっているんですよ。一見関係のない話が、実は関係があるという。まさかこの第一話からあんな結末が待っているなんて、誰が思ったのでしょうか。

### 〈第二話〉宇宙刑事VSディテクト

悪の組織のミルダ参謀と、正義を守る宇宙刑事ズバンが戦っている現場で、倒された戦闘員がひとり多いことに気付き、調べてみると戦闘員の格好をした女性が死んでいた。これは不幸な事故かと思いきや、通りすがりの探偵（宇宙探偵ディテクト）が現れ、事件を解決へと導く。

・このお話は、『11人いる!』をモチーフにしたと思われます。

P 3 5   D E C C H I   U P   →   デッチ   あげ。

P 4 0   通りすがりの探偵の服装   →   横溝正史の小説の登場人物『金田一耕助』のもの。

P 5 1   宇宙探偵ディテクト   →   英語で探偵を意味する DETECTIVE から。

### 〈第三話〉罪悪

・いわゆる「叙述トリック」ものですね。扉絵の時点で気づいた人もいるかもしれませんが、わりかしわかりやすかったと思います。

・この話のラストに提示される「感情」も後半の伏線になっています。

P 6 0   四コマ目   → スミヤカニメ……

P 7 0 3 コマ目の刑事 → ロボット課の間宮刑事。第 6 話で判明。

P 7 1 芹沢さん → 芹沢勉（芹沢博士）

3 コマ目の学者 → 第 5 話の討論会に出席する河森学。

#### 〈第四話〉面倒な館

ワケありの住人が住む集合住宅・外天楼の一室で見つかった男（下井）の死体が発見される。

- ・いかにもミステリな「密室トリック」「館殺人」が扱われます。
- ・下井<sup>しもいこうふす</sup>仰臥 → 死体 CORPSE。CORPSE は死体という意味。
- ・島田荘司『斜め屋敷の犯罪』をモチーフにしていると思われます。

#### 〈第五話〉フェアリー殺人事件

人工生命学の権威・鬼口獐牙が殺される。しかも同時刻にフェアリー社の工場が襲われるという報告が入る。

- ・鬼口獐牙 → 鬼畜・外道のアナグラム。
- ・「芹沢博士と連絡が取れない」とか「鬼口に娘がいる」といった重要な情報が、何気ないセリフの中に隠されているのも見逃せないところです。

#### 〈第六話〉容疑者Mの転身

1 人の少年（諸葉健）が鬼口を殺したと自首しますが、その供述はあいまいなものだった。しかも、同時刻に港駅のカメラに映っていた。

- ・この話はいわゆる「アリバイトリック」ものになるでしょうね。
- ・そして、終わりの方に外天楼の一室で、芹沢博士が殺されたという報告が入ってきます。ここから物語が核心に迫っていきます。

#### 〈第七話〉鱈沼家の一族

・芹沢の死から鬼口獐牙のもう 1 つの顔が浮かび上がり、それが第 1 話から登場している鱈沼アリオにつながっていることが明らかになったりして、いよいよ物語が繋がりはじめてきます。

### 〈第八話〉キリエ

・語られる衝撃の真実。一見関係のないと思えた第三話と第四話は、ここで繋がってきます。

・アリオと対峙する桜場。アリオは「やることがある」と言うんですけど、これは具体的に何をしようとしていたのかが気になります。

P 1 9 1 不自然な膨張を続ける人口生命体のビンの番号が 2 8 → 大友克洋『AKIRA』のアキラがつけられたナンバーと同じ。

### 〈最終話〉アリオ

・アリオ誕生の秘密など、すべてが明らかになっていきます。まさに怒涛の最終回。

さて、ここで私がこの漫画で一番気になっていることは、

「鬼口は死ぬ間際にアリオたちをかばおうとしたのか、それとも鱧沼家の秘密を闇に葬ろうとしたのか？」です。

## 3 私がみなさんに聞きたいこと

・第八話でアリオと対峙する桜場。アリオは「やることがある」と言っていたが、これは具体的に何をしようとしていたのか。

・最終話で、桜場が傷口から出血していないことを考えると、彼女もロボットだったのだろうか。

・最終話で「鬼口は死ぬ間際にアリオたちをかばおうとしたのか、それとも鱧沼家の秘密を闇に葬ろうとしたのか？」

みなさんはどっちだと思いますか？